

【様式①】令和6年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 三輪北小学校

校長名 北川 美千代

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	自ら求め自ら学び仲間と高まり合う子の育成のための個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けた授業改善と教育DXの推進 多様かつ豊かな学びのための小規模校つながるプロジェクトの推進 人権尊重の精神や生命の尊厳への理解を深める人権教育の充実	B	自由進度学習を取り入れたリロイノートを活用したりして、個々の学び方を大切にしながらアウトプットする場を位置付け仲間とともに学ぶ中で力の定着を図った。小規模3校つながるプロジェクトではICTを活用し、多様な考え方に触れるようにした。岐阜市の12の人権課題について学ぶ人権ユニット学習のカリキュラムを作成し、人権教育の充実を図った。英語を専門とする教師が英語科を担当し、段階的に話す・書く力を付けた。	「自分から」というキャッチフレーズが先生にも子どもにもよしみ渡っていて、前向きに励む様子が育っている。企業が作成した教材を活用しながら教育DXが行われていることが参観から分かった。小規模同士の交流により同学年の子との関わりが増えることはとてもよい刺激になっている。体験的な学習活動を大切にしながら指導の工夫を心がけたい。	「自分から」の姿が学習の場面でも発揮できるようにしていく。児童自らが問題を見いだしたり学ぶ必然を実感できるよう児童が主語となる授業改善を行う。また、アウトプットする場を多く位置付けるよう、仲間との交流の充実を図る。 自己肯定感を高めるための「よいところみつけ」活動を家庭・地域に広げていく。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	幼保小中の連携、人的資源・物的資源等、地域の教育力を積極的に活用し、児童の夢や希望を育む学習活動の工夫と充実	A	1年生児童との遊びの交流や音楽鑑賞会で幼保小の交流を行った。小中一貫教育では、あいさつ標語づくりやあいさつタッチ活動を行うことであいさつへの意識を高めた。ふるさとの自然や歴史について体験的に学ぶことができるように、地域の人的・物的資源を活用し授業に生かすことができた。地域の方とともに「命について考える日」を位置付け、通学路の危険箇所を確認したり、自分の生き方を見つめたりすることができた。	さつまいもや米づくりなどこの地域ならではの活動を保育所と一緒にすることで園児の就学に対する期待につながっている。地域やPTAとのつながりや協働体制がよくなっている。今後、若い人から高齢者に至る幅広い方々が学校に関わっていただける新しい体制づくりを考えていく必要がある。	「人・もの・こと」から学びを深めることができるよう、総合的な学習の時間のカリキュラムを見直す。 幼保小連協議会を位置付け、さらに職員同士の交流を図る。小中一貫教育においては、全校研究会などでも交流を深めていく。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	ICTの効果的な活用による「働き方改革」の推進と子どもと深く向き合う時間の確保と充実 教職員のコミュニケーションの活性化と自ら求める研修による働きがいがある職場づくり	A	チームスやロイノートを活用して提案資料をまとめることにより、打ち合わせ時間の削減や次年度の資料作成の時間短縮ができた。計画的に5時間授業を行い、放課後の時間を確保して、子どもと向き合う時間を設けることができた。放課後の職員室で自発的に授業研究を行ったり、児童交流をしたりして自己研鑽する姿が見られた。	ICTを活用しながら子どもたちへの個別の支援を行ったり、保育所の児童や職員に対してもあたたかく協力的に接したりしている。子どもたちが「学校が楽しい」といって毎日登校している姿を見ることがうれしい。地域の行事が増えることで先生の負担が増えないよう、今後も地域と学校が連携をとっていきたい。	会議の持ち方や授業時間数などを見直し放課後時間を確保して子どもと向き合う時間の充実を図る。 研修主事を中心として、自ら求め学び合うことができるようにする。個々の専門性を生かした研修を計画し指導力向上を図る。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	災害時において、自分の命は自分で守る意識を育む指導と命を守る訓練・シェイクアウト訓練の実施 「三輪北小学校いじめ防止基本方針」に基づいた迅速で組織的な対応と相手理解の涵養	A	災害時において自分の命を自分で守ることができるように、様々な避難の仕方を想定して月1回の訓練を行うことができた。低身長の子や酸素吸入をしている児童も安心して避難することができるように保護者とも確認を取り合った。また、教室や廊下の危険箇所について点検し、撤去作業を行った。年度初めの「命について考える日」の位置付けにより、交通安全への意識を高めることができた。いじめの未然防止のために組織的に対応した。	登校の様子を見ていると、皆で声をかけながら登校していると感じる。来年度は岐阜市通学路安全対策ワークショップが開催されるので、危険箇所について学校と地域で確認を行いたい。今後も地域とも連携を図りながら、安心・安全なまちづくりをしていきたい。学校運営協議会で不登校やいじめ対策について積極的に取り組んでいることが分かった。	災害時の対応の見直しを図り、様々な場面における職員や児童の動きについて確認できるようにする。「命について考える日」と「未来について考える日」を設け、保護者や地域の方とともに、自分の命を自分で守り未来への希望を抱く教育を行う。いじめの未然防止に向けた組織的・計画的な指導の徹底が行えるよう職員で共通理解を図る。いじめを見逃さない日の計画を充実させる。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	全職員での適切な個人情報管理 施設設備や教材教具、ICT機器の定期的な整備点検等、適切な管理と計画的な環境整備及び適切な財務管理と有効な活用	A	年度始めだけでなく年度途中にも「岐阜市情報セキュリティハンドブック」を確認する機会を設け、個人情報の適切な管理に努めた。備品の整理整頓に心がけ、適切な財務管理に努めた。学校事務処理は複数の目で確認を行い、適正な管理に努めた。ICT活用により、ペーパーレス化に努めることができた。「事務の日」には事務職員の話を中心とした位置付け、児童とともに財務の有効活用について考えることができた。	校内がよく整頓されている。芝生の手入れに加えてICTの管理も加わり先生方の多忙化につながらないか気がかりである。机上にタブレットがあり、机の上が狭くなっているように感じる。学習環境を考えていきたい。児童数を反映した物品等のやりくりが大変であると思うが、限られた教育環境の中でできることを考えて全職員で動いてもらえている。	全職員で個人情報の扱いについて共通理解を図り、適切な管理を行うことができるようにする。準備室などの整理整頓を心がけたり、備品の確認を実施したりすることで、適切な財務管理と有効な運用ができるようにする。引き続き、ICT活用により、ペーパーレス化に努める。事務職員の学校運営への参画を継続し、適切な納入金管理や教材購入を行う。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/miwakita-e/>